

平成 27 年度ひろしま県民活動表彰応募書

活動名	安田女子大学×安芸太田町 困りごと解決プロジェクト																		
課題	<p>広島県内最少人口 (6,806 人 ※1)、高齢化率県内ワースト (47.97% ※1)、人口減少率中国地方ワースト (▲11.9% ※2) といった非常に厳しい状況に直面している安芸太田町では、地域に山積する様々な課題を、従来のように地域や個人で解決することが困難になりつつある。</p> <p>課題には「農作物の猿被害」といった中山間地域共通のものや「独居高齢者宅の雪かき」といった豪雪地帯ならではのものなどがあり、それらが複雑に組み合わさることで、高齢化が進み、担い手不足に悩む住民にとって重い負担を強いている。</p> <p>※1 住民基本台帳人口と外国人登録人口を合計した総人口による (平成 27 年 12 月末現在) ※2 国勢調査による (平成 17 年と平成 22 年の比較)</p>																		
課題解決のための取組	<p>平成 24 年度から「安田女子大学×安芸太田町 困りごと解決プロジェクト」として、安田女子大学の学生と安芸太田町の住民が協力して地域課題 (= 困りごと) の解決を図る取組を開始。安田女子大学の共通教育科目「ボランティア活動」の一環として、4 年目となる平成 27 年度は 6 地域での実施を予定している。各回 20～40 名の学生が参加し、地域住民と力を合わせて「困りごと」の解決を目指す。</p> <p>これまでに実施した活動は、猿被害防止の「果実もぎとり」や独居高齢者宅の「雪かき」、小正月行事「とんど祭り」の運営手伝いなど、地域によって様々。真のニーズを探ることが求められるボランティア活動において、参加学生は地域住民とふれあいながら、楽しく、真剣に、各自の積極性を高めている。</p>																		
他団体等との連携	<p>この取組を開始するにあたって、安田女子大学と安芸太田町観光協会の両方で連携協定を締結。地域住民側のコーディネータは安芸太田町観光協会が担当し、町行政の全面的なバックアップを受けながら、自治振興会や実行委員会などの住民グループと協力して受入体制を構築している。</p> <p>上記の連携協定が縁となり、安芸太田町観光協会が町特産の「祇園坊柿」を使ったジェラートを開発する際、安田女子大学管理栄養学科の学生が味などを監修するといった連携も生まれた。多岐に渡り専門性を有する安田女子大学と、「観光」の枠を超えて地域活性化に取り組む安芸太田町観光協会の連携が相乗効果をもたらした好例と言える。</p>																		
事業費	<input checked="" type="checkbox"/> 会費 <input type="checkbox"/> 自主事業 <input type="checkbox"/> 行政委託 <input type="checkbox"/> 企業委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・助成金 <input type="checkbox"/> 寄付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他																		
成果	<p>この取組を通じて「困りごと」の根本的な解消とはならないものの、一時的な解決となるほか、近頃ではめっきり聞かれなくなった若者の声が地域に響くことによる住民の「心の活性化」や、若者との交流を通じた「地元に対する誇りの再生」といった成果が得られた。</p> <p>また、近い将来日本が直面する「超高齢化社会」を既に迎えている安芸太田町は、言わば日本の「最先端」であり、学生にとっては将来自分たちが生きる時代を先取って体感することができる貴重な機会となっている。さらに、地域住民から感謝の言葉を直接伝えられることで「自分の能力の可能性」を実感したり、都市部の学生にとって最も縁遠い存在である山間部の高齢者との交流が「生きる力」を育む機会となるなどの成果が得られている。</p> <p>そのほか、参加学生が卒業後に受入側として参加する継続的な交流や、旧町村単位を超えた受入地域同士の交流など、この取組から生まれた新たな「絆」が安芸太田町の活性化に貢献している。</p> <p>年度別の実施回数、参加人数は以下の通り。</p> <table border="1" data-bbox="316 1944 1437 2072"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 24 年度</th> <th>平成 25 年度</th> <th>平成 26 年度</th> <th>平成 27 年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>3 回</td> <td>4 回</td> <td>4 回</td> <td>6 回</td> <td>17 回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>113 名</td> <td>123 名</td> <td>114 名</td> <td>179 名</td> <td>529 名</td> </tr> </tbody> </table>		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	合計	実施回数	3 回	4 回	4 回	6 回	17 回	参加者数	113 名	123 名	114 名	179 名	529 名
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	合計														
実施回数	3 回	4 回	4 回	6 回	17 回														
参加者数	113 名	123 名	114 名	179 名	529 名														

今後の展開	<p>前述の連携協定が平成 28 年 3 月 31 日に期間満了となるため、両者で再度締結の予定。同年 4 月から安芸太田町内の全 48 自治振興会および住民グループに対し実施募集を行う。</p> <p>また、参加後も地域住民との交流を希望する学生と、継続的な交流を経てコミュニティーへの参画（定期的交流、移住誘引）を最終目的とする自治振興会および住民グループとのマッチングを積極的に行うため、町行政と協力しスキームづくりを行う。</p>
他の受賞歴	

注：記入内容について、ヒアリング、協議をさせていただくことがあります。

記入スペースについては必要に応じて幅を増減、又は別紙添付（A4 サイズ）により記載して差し支えありません。

なお、参考資料として活動実績が具体的にわかる資料（新聞記事、写真、パンフレット等）がある場合は、A4 サイズで添付してください。

～添付資料一覧～

- ① 読売新聞 2016 年 2 月 5 日
- ② 中国新聞 2016 年 1 月 11 日
- ③ 中国新聞 2015 年 10 月 28 日
- ④ 中国新聞 2014 年 1 月 27 日
- ⑤ 中国新聞 2014 年 1 月 14 日
- ⑥ 中国新聞 2013 年 10 月 27 日
- ⑦ 中国新聞 2013 年 8 月 6 日
- ⑧ 中国新聞 2013 年 6 月 2 日
- ⑨ 中国新聞 2013 年 1 月 28 日
- ⑩ 中国新聞 2013 年 1 月 1 日
- ⑪ 中国新聞 2012 年 12 月 1 日
- ⑫ 安田女子大学 by AERA
- ⑬ 活動写真（平成 27 年度実施分）